

# SADA

SAKAI DESIGN ASSOCIATION

堺デザイン協会

NO. 17  
1996年6月



## 10年を機に

岡村 篤

このところ堺は深井と鳳に支所が出来、目に見えて変ってきた。“想像し伝統をはくむ都市堺”というテーマである。中世の自由と自治のたくましい歴史は本当の意味でこの新しい堺の街づくりに生かされてほしい。新市民と古くから堺



に住んでいる旧市民が約半数づつ、自分達の住む堺が他の街に誇れる我がふるさと堺にしたいと願っている。

去年は神戸の大震災につぐオウム、住専など、景気の低迷に加え人々のやる気を無くす事件が続発した。お陰様で大震災は戦後の住宅難や食料難を思い起こさせ、後者は今我々の行動がこれでいいのかと反省させるチャンスを与えてくれた。

物質文明そのものは人々が英知と努力を傾けて築き上げてきた成果で、その恩恵によって現在があるのだが、その基礎の上に立って新しい時代へ向けて自らの創意と工夫を加えていくために、人まねではない独自の創造の世界が何よりも重要であり大事にされなければならない。とりもなおさず私達はそのクリエイティブの世界の真っ只中に存在する人種なのである。

堺の人口は今80万人である。平成8年4月1日より中核都市として名乗りを上げ、その線上には政令指定都市が控えている。今回中核都市となる各都市の中では一番大きな市でもある。日本列島を北から順に眺めてみると、仙台市や千葉市、川崎市や南の方では北九州市などが既に政令指定都市になっている。

かつて歴史的に文化都市と言われた堺が遅れをとっているのではないかという思いしきりである。中核都市となって何が一番魅力なのかと言えば、福祉面の権限は別として、都市計画が少しは独自の力で出来るところだ。政令指定都市になればその巾が一層増大する。

ここ数年、国のデザイン施策の近畿ブロック説明会に堺デザイン協会もデザイン団体として出席しているが、この会合も近畿の府県と政令指定都市までしか連絡が届かない。

堺がやがて迎える政令指定都市の前哨戦のつもりで出席資料を持ち帰るよう心掛けている。しかし、デザインを扱う国のセクションですら、昨年からようやくデザインは貿易振興から産業政策に移り、実情に合う対応を考えはじめたところだ。

文化とは人間が生きてきている値打ちではなからうか。創造したり工夫したりする知能活動は文化そのものの姿であり、具象物を形づくる際の行動以前の知能である。

形の見えるものは理解され易いが、創造と工夫のようなものは、ともすれば軽々に取り扱われ、まして今までなかった新しい発想や知恵は前例がないという扱いにされるのがオチだった。しかし最近ではそうも言っていない。知能文化に対する権利の進んだアメリカには、このところついぞひどい目に逢っている。ソフト産業や、各方面の著作権など特許に絡む事件にも悩まされている。原因の一つは文化に対処するマネージメントの貧弱さと、もう一つはそれらに対する心構えというか道徳なのだと思う。物は金で買うが考えはタダにするか真似をするという日常の考え方、一方我々の側でも付加価値と称して訳の分からない値段をつけるなど先進国日本人として、この程度の恥ずかしい道徳しか持ち合わせていない。

私達は政令指定都市としてスタートした時の堺をどのようにしようとしているのか、そのために立派な建物や施設をどのように活用していくのか、又対外的に堺の顔をどのように他に見せようとしているのか。このところ言われている優秀な官吏に並の市民ではなく、堺という一つのまとまった人格としての考えを取りまとめていくために、他に任せばなしにしないで自分達の方からより具体的な提案が着々と準備されていなければ、いざという時に間に合わない。官民を問わず堺の人は堺のためにもっと力を出さなければ誰がやる。

目見える立派な建物や街の姿も大切だがもっと現代人らしいスマートな堺人が必要になってきた。

## 設立10周年記念式典

於リーガロイヤルホテル堺

平成7年5月19日、堺デザイン協会創立10周年記念式典がリーガロイヤルホテル堺で開催され、大阪府、堺市、商工会議所、デザイン関係団体などからの御来賓とSaDA会員、賛助会員多数の参加がありました。通常総会の後、当協会の設立と運営に多大なる尽力をされた初代理事長、川崎浩氏をはじめ、垣村三平氏、要信一氏、老健一氏を名誉会員として表彰、岡村理事長より表彰状と記念品が手渡されました。そのあと大阪府立産業デザイン研究センター所長、今竹翠氏の記念講演「地域とデザイン」を拝聴しました。(講演要旨3、4頁)



パーティーは理事長の挨拶にはじまり、幡谷豪男堺市長をはじめ、御来賓各位の心こもった祝辞をいただきました。また、多数の方々からの祝電の披露があり、堺市議会元議長、当協会賛助会員松村寿氏の乾杯の音頭で懇親の宴に入りました。あちらこちらのテーブルでの歓談が続く中でスピーチもいただき、楽しい雰囲気の中にも堺デザイン協会に期待される重責を痛感し、10周年という節目と共に一歩前進した活動展開を心に期し、盛会裡に閉会となりました。



## 講話「地域とデザイン」

大阪府立産業デザイン研究センター  
所長 今竹 翠

先頃の地震で私も被害を受け、四月になりやっと水道とガスが出て暮らせるようになったところです。日常私達がデザインの仕事の中で環境が大切だと言っておりますがこのような大震災に直面しますと改めて環境が何であるか考えさせられます。夜道には灯がなくなり、地上の目印がなくなってしまう。そんな時の不安というのは平常心では考えられないものです。そんな中でデザインが空間を扱うということをもつて改めて考えさせられました。

今回の震災で阪神間の、又限られた地域で震災が起こり、限られた小さなエリアが浮かび上がってきましたが、これが即ち「地域」だと思っておりますが、そういう意味で堺は昔から歴史や文化や産業を持ったはっきりした「地域」だと言えます。そのような伝統を持った地域の中に出来た堺デザイン協会の活動に大きな期待をしたいと思います。

昨今地震の恐怖が抜けていないにも拘らずオウム真理教の報道で一杯ですが、これは世の中がこれまでの高度成長の社会と全然違ってきている一つの現象と言えないでしょうか。経済的な豊かさ、技術的な豊かさに対して出てくるデメリットの部分も非常にはっきりしてきたのではないかと思います。我々デザイナーが関わる産業にもコンピューターを代表とするハイテク化が物凄い勢いで押し寄せてきています。産業デザイン研究センターでもCGやパソコン、マルチメディアのシンポジウムを開催しています。

建築の分野では日影の線を引いたり単価の計算をしたりすでにかなり実用化されています。ある教育の場面ではマンツーマンよりコンピュータ画面を前にしている方が自由に質問が出来、聞きたい所が繰り返し聞けるというので逆に効率が上がるといった事も起こっています。

10年以前には考えられなかったハイテク化が進んでいる一方で、合理化が進んだ結果、余暇が増え、生活の環境が変わってきています。舗装道路に囲まれレトルト食品で暮らしているという生活の中から自然へのあこがれが生ま

れ、一般的にはこのハイテクの世の中とは矛盾したニーズが生まれ、非常に落ち着かない社会状況になっています。

今堺では与謝野晶子、千利休、最近ではミュージアの展示、自転車博物館などいろいろな事業が計画され実行されていますが、堺という地域がどのへんに位置しているのか見極めるのが一番先ではないかと思えます。

ここ数年刃物デザインコンペが世界中から応募されるようになってきました。地域とデザインといった意味でそれらのデザイン資産にアイデアが肉付けされて大きなものに膨れ上がらせていけば、立派なものに出来上がることは間違いないと思えます。堺は歴史があります。

日本には今、同じ文化を持つ同じ風景の特に個性のない市町村が3,000あり、その市町村がそれぞれ3,000の行政区



に分かれ、一生懸命「町おこし」をやっています。そこで殆どの所が、拠点の建物を造り、特産物を並べ、その加工場がある。そこで作っているものはお味噌とお漬物と決まっています。これは補助金の性格からユニークなアイデアを出して変わったことをすると通らないというところから金太郎飴みたいな同じものが全国にばらまかれる事になる。それではいけないと試みをしている例を二三申し上げます。

長岡市ではデザイン学校を造って町の役に立っておられます。

京都の園部町では、10年計画をたて、学園都市づくりを明確に打ちだされそれを本当に具現化されています。京都医療技術専門学校をはじめ京都医療技術短期大学、京都国際建築技術専門学校などすでに七つの学校が出来ています。

15,000人の町に学生が5,000人やってきて、やがてその卒業生が園部の役に立つ人材となっていく。なかなかいいところに目をつけられたと思います。このように各地方がしっかり頑張っているの、堺だけに視点を置いて考えていたら乗り遅れると思います。大阪府の中の堺という事ではなく、昔から歴史のある堺が広域の中でどういう場を占めればいいのかをきっちりと視野の中にとらえた上でデザイナーの方々もそれに参画していただきたいと思います。その場合自ずから役割分担があって根本的な問題は国が、府は中間的な分野の、市町村は本当に具体的なものと関わってプロジェクトがつくられていきます。

私共産業デザイン研究センターでは、デザイナーや地域に直接役に立つオープンカレッジを開校しています。暮らしの変化やデザインビジネス、これからのマーケティングなど、さらに伝統技術や工芸を現地で実際に勉強したりしています。又デザイナーは今の生活者が何を必要としているかということに関わるのが一番大切な仕事ですが、その意味でエイジレス社会に向けて高齢化社会で本当に役に立つものは何であるかという研究をここ3年行っています。女性問題も取り上げなくてはならないでしょう。女性というとminorityと考えられているかもしれませんが女性こそmajorityで女性をターゲットから外したプロジェクトは成功しません。しかし計画を立てているのはいつも男性です。反面女性をターゲットにして成功している例がたくさんあります。堺の場合は高齢者、女性、環境といったことを観光と上手にからませると成功すると思います。商工と文化、文化向上と町の活性化といったものをスマートな形で堺の文化でくるんで作り上げるのが道だろうと思います。

私の勉強しましたプラットインスティテュートはアメリカでいち早くインダストリアルデザイン科を創った学校です。この学校の先生でロウエナ・リード・コストロウという方がおられ50年間在職中1,500人の生徒を教え、独自の教育論理を樹立した大変優秀な教育者でした。デザイナーが仕事の中で複雑怪奇な問題や、解決できない難題に遭遇しますが、それを見事に解決できる方法を教育で教えています。“抽象の構造”という名前と呼ばれる考え方で、いろん

なものを全部抽象化して、構造的に組み直し、どんな複雑な問題でも、最もシンプルで最も確かな形にして解決する事を身に付けさせるという教育でした。最近この理論が全米的にクローズアップされ、卒業生などが出資して、記念館が建てられ本が出版されました。今年是有識者が集ま



り、“社会的な意味のあるデザイン=society responsible design”ドイツというソシオデザインのセミナーが開催される予定です。

今私達は物が溢れ、ありとあらゆる豊かさの中で暮らしています。しかしあるとき地震が起こったら何もかもわからなくなったという混乱状態に陥る。そのような時にデザイナーの根本的な考え方の基盤というものをどのように持ち続けるか、その基盤というもの、これがなければ今日のデザイン業務は続けていけないのではないかと思います。

数年前からバリアレスということが言われていますが、専門性が必要な反面、専門性だけではダメな時代に入ってきていることは確かだと思います。グラフィックもプロダクトもディスプレイもお互い関わりあっている“structure of visual relationship=抽象関連の構成”という視点で見直される必要に迫られています。

デザインの基本のころへ立ち返って、デザイナーの役割、デザイナーが地域に果たすべき役割、デザイナーがどうすれば自分の力を最大限に発揮できるのかということをもう一度よく見直して、活動そのものを考えていかなければならない時代に入ってきていると思います。

# 「チンチン電車と浜寺公園附近」

その 2

わが町——堺をデザインする。

●ど派手な広告をペイントした電車・カラオケ完備の宴会列車が堺の街を走っているとき市民として恥ずかしくなる時がある。

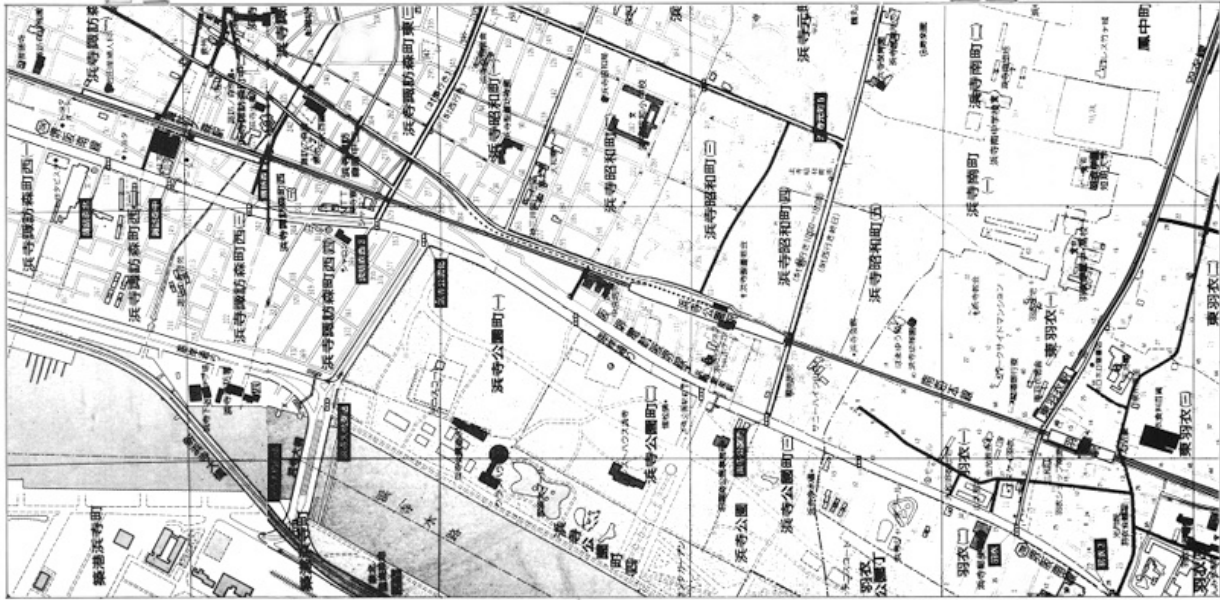
堺市が計画中の都市計画案があると思いますが、それは別にまったくの独断のデザイナーの立案から建築株式会社 アトリエ オカモト 岡本安吉



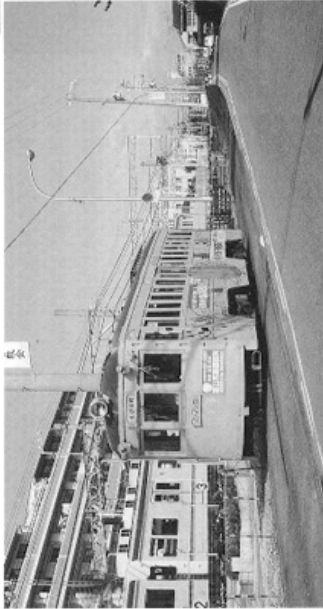
＜浜寺公園内を通る人にも…＞  
 与野野島子もよく訪れたと云われる浜寺公園は全国でもまれなくらい広大な樹蔭の公園で、今もその松林のすばらしさは訪れる市民をほっとさせてくれる。  
 現在の公園、東側（海岸通り）と旧園（北交差点から大橋部）までの公園の周囲には、「ウバメガシ」というブナ科の樹木が植えられている。一般に云うドングリの水である。その内側には金網のフェンスが設けられている。その生け垣が人の背丈よりも高く、公園の中が暗く、蒸暑しく感じる。  
 いっそも生け垣をなくして低い花木にし、もっと外から公園の中の美しい松林が見える明るい開かれた公園であってほしい。外の歩道を遮断する人も、海岸通りを走る車中からでも、ぼっとする風景が何よりも心をなごませてくれる。それが又、公園に出向いてくると切っ掛けとなるのである…  
 瀬石の文章の中にも「汽車が海岸近くを走るときは、松の緑と海の藍とで、煙に染れた空に黄か黄褐色を射返した」と書かれていたようだ。  
 それは浜寺公園には限られた何箇所かの入口しかなく外部より封鎖的な感じがする。もっと自由に、どこからでも入られる、寛げる公園になってほしい。



＜オートキャンプ用駐車場＞  
 現在ある駐車場を、もう一度自然なかたちに戻し、改良してオートキャンプ用駐車場として活用してほしい。もちろん、水道設備、トイレ、シャワー施設を設け、本格的オートキャンプでなくとも、スゴーツクラブの会館などに利用してもらい、早朝のすがすがしさを味わってもらおう。



わが町、最初の軌道は明治5年、東京一橋開通だが、今日まで水陸している私鉄といえは、明治17年に設立した、大阪堺間鉄道（現在の東横線）である。当時の沿線には、明石川が流れて、海浜浴場や遊園地など大へん大な人気を呼んでいた。海岸沿いは自然的条件に恵まれており、遊園地が立ち並び、浜寺公園あたりもその中心であった。それから随分と時代が変わり、沿線には工業化のまことにコンクリートとタンクの道なるコンピナートとして、明治、大正の良き時代につくられた町並みが残っており、西に、南海本線、東にJR阪和線が平行して走っており、その中央を阪堺線が横断し、→→→浜寺公園駅を走っているが、その道が狭い、特に堺市内においては、阪堺線という南海阪和線と並行して走っているが、その道が狭い、本線から阪堺線の乗客は、その不便さを余儀なくされている。雨の日、手荷物が多い時、急ぐ時、いち度改札を出て300m程度の道は実に煩わしい。



＜跡地をパーキングエリアに…＞  
 それらの、移転によって与えた跡地、（輸送数増大に長さ500m）に浜寺公園の駐車場を設けてはと思う。現在の公園駐車場に、海岸通りを前にして2箇所、大橋部沿いに1箇所といづれも手狭で、夏休みなどは、駐車場に入る車の列が一日中、つづいていることも有る。  
 又、跡地駐車場は、階のフロアとし、下は観光バス、トラック等がマイカーを収容し、本線駐車場もここでも階が2階にする。階フロアとのどこかに軽乗、レストランの設備をもつけ、堺阪線ルートのパークエリアとする。  
 以上、阪堺線のルート変更により、確実に乗車人員が増加すると見られる。感度はそれらの人々が堺市内に流れ込み市内は活気づくと思われる。



＜阪堺線の終着駅を本線の駅に…＞  
 そこで、阪堺線の終着駅を浜寺公園駅の東側に移転してはどうだろうか。浜寺昭和町一丁目の踏切、南100mあたりから（南海本線の蓬莱橋を渡らず本線に沿って南に走り、浜寺公園駅の東側のプラットホームを終着駅とする。  
 幸い、本線の東側500mには、小さな河が有り、プラットホームの東側は現在、駐輪場となっており、南海、阪堺の双方の車両が並行して走ると思われる。



＜浜寺公園附近＞  
 周辺には、大正・昭和にかけての古い建物がそこそこにある。昨年NHKが朝ドラ「春よ来い」今の「走らんか」などのロケ地となった場所がいろいろ有る。それらの建物はこの大震災にも耐えがらばっている。  
 「春よ来い」などは著者の実家としての入舎エピソードで登場し、朝ドラを通じて全国に知られている。…それらを記念して、この地区の景観を整理し、訪ねて来た人達に親切に良くわかるように表示板などで案内し、さらにこの地区の建物のどこかに、「朝田藤子記念館」なども、ふさわしいのではないかとと思う。

## SaDA 見学会 〈インテックスから関空へ〉



平成6年9月9日、見学会が開催されました。今回は賛助会員の大阪ガス株式会社のご好意で、都市エネルギーシステムフェアと出来たばかりの関西国際空港を貸切バスで見学しました。

午後1時、満席の大型バスに乗り込んだ参加者は配られたお菓子やジュースを手に、子供のころの遠足のような気分で一路目的地へ出発、あっという間に会場のインテックスに到着し各自、自由に見学をはじめました。会場ではボイラーやいろんなエネルギー機器とシステムが展示され特に業務用の厨房器具の実演では仕事がらみもあって熱心に見学させていただきました。飲食のコーナーもあり先程実演していた焼き鳥や焼きソバなどにビールまで自由にいただけるので飲んだり食べたり、賑やかに一時を過ごしました。

午後3時30分に開港したばかりの空港に到着、少し時間は短かったものの、新しい建物と設備に興味深く見学しました。

## SaDA 見学会〔Ⅱ〕 〈ATC・WTC見学と講演会〉

平成7年11月3日(祝日)恒例の見学会が行われ、南港のATC・WTC見学とプロゴルファー島田幸作氏の講演会、インテックス大阪6号館で行われた"95トータルガス システムフェア"を見学しました。午前10時に堺市民会館前に集合、11時ATC着、当日は快晴に恵まれ、展望塔からは大阪湾が一望に眺めることが出来、高いところに登るのは気持ちがいいなと言いながら360°のパノラマを満喫しました。話し上手の島田幸作氏の講演はゴルフファンにはなかなか面白いお話で生でなければの実感もあり楽しい一日を過ごすことが出来ました。昨年に引き続きお世話をいただいた大阪ガスの岡村真門様に厚くお礼を申し上げます。



## 堺・今・昔

### 西高野街道

老 健一

堺の五街道の一つとして、遠い平安の頃から天皇や、貴族の高野山詣の道として、整備され賑わった西高野街道は、河内と紀伊を結ぶ道でもあったようです。堺の大小路から、南へ大阪狭山市、河内長野市を経て、紀見峠を越え高野山に至る全長27.8kmの街道ですが、堺市内では、榎元町で竹内街道と分かれるまでは一緒になっています。

江戸時代には、堺から高野山へ米・酒・綿などの生活物資を運ぶ道としても、活用された街道であります。私は過去この道を歩きましたが、

南海高野線の三国ヶ丘駅前の、バス停横に写真でみるような、道標を立ててありました。この駅前の道の国道310号線は、西高野街道を吸収していますが、百舌赤畑町で分れ、府立大学前で再び一緒になり、中百舌中学近くで分かれています。これ以南は平行していますが、道幅は約4mで舗装されています。自動車時代の道としては、使い悪く堺市内へ向かって一方通行になっています。



途中、関茶屋とか中茶屋という地名がありますが、旅人の憩いの場所があったのでしょうか。幕末の明和八年、お陰参りが流行し、「老若男女小兒迄家内不残」と書かれ、当時はこれらの人々で街道が賑わったのでしょうか。





## 第12回 総会

於リーガロイヤルホテル堺

日時 平成7年5月19日（金）午後5時開会  
場所 リーガロイヤルホテル堺  
出席者 委任状総計で過半数に達しており総会開催が成立したことを確認

### 議事

第1号議案 平成6年度事業報告および収支決算報告  
上野理事より事業報告  
森理事より収支決算報告  
金子監事より会計監査報告—承認

第2号議案 役員改選の件  
森達男選挙管理委員より投票の結果報告  
理事の互選の結果、岡村荀氏が理事長に選出された。

理事長	岡	村	荀
副理事長	高	木	外
理事	山	崎	晶
	森	和	男
	上	野	あきら
	辻	哲	男
	崎	田	公明
監事	金	子	誠之助
	森	達	男

第3号議案 平成7年度事業計画（案）及び収支予算（案）



## 協会ニュース

- 堺市長 当協会顧問就任  
10周年を機に、堺市長幡谷豪男氏を当協会顧問としてお迎えした。
- 阪神大震災の義援金として10万円を堺市長を通じて日赤に寄付。



- 勳五等瑞宝章  
賛助会員 滝川重次氏  
アルスコオペレーション株式会社 代表取締役  
堺刃物商工業協同組合連合会 理事長
- 黄綬褒章  
会員 滝川益彦氏
- 藍綬褒章  
賛助会員 河盛泰三氏  
大醬株式会社 会長
- 大阪府産業功勞者  
賛助会員 信田圭造氏  
株式会社 和泉利器製作所 代表取締役社長



●訃報

会員 要信一氏、平成8年1月3日逝去されました。  
堺デザイン協会の設立会員である要信一さんが本年1月3日亡くなられました。享年86才、近親の方々によって密葬されました。後日、本会よりお供えをさせていただきました。独特の人生哲学の持主で、会合での乾杯の姿が思い出されます。

---

## 表紙のコメント

---

よく他府県の人から、堺はどういう街ですかと聞かれることがあります。私は、その時「寝ているふりをしている街です！」と答えます。表紙の写真を撮っていてもそう思われることがあります。

岡本安吉

---

## 編集後記

---

年2回を予定している会報SaDAは今年度は一回の発行となりました。早くより原稿をいただいている方にはご迷惑をお掛けしましたお詫び申し上げます。世情もいろいろ騒がしく、不況の中で広報委員も懸命にお世話をしております。何とぞ原稿執筆を今後共よろしくおねがいたします。

会報 **SADA** 17号  
平成8年6月15日

発行 堺デザイン協会

〒590 堺市北向陽町1-1-7オカムラデザインプロ内 TEL. 0722-29-5011

編集 堺デザイン協会広報委員会